

感動の場 一点の場

『游』
1992年 小川原 脩 画

四季折々、美術館の庭にはたくさんの鳥が訪れます。25年かけて大きく成長した木々や青々とした芝生は、鳥たちにとって居心地が良いようです。春になるとハクセキレイの子育てが始まり、渡り鳥の群れもやって来てにぎやかさも増してきます。夏に向かって、今度はどんな鳥たちが美術館の庭に姿を見せるでしょうか。

この作品には、温かみを感じる暖色の空間に、ふんわりとしたタッチで白い木と数羽の鳥が描かれています。幹の周辺を飛び回るもの、気ままに止まるもの、自由に振る舞う小鳥たち。顔こそありませんが、優しく見守っているような表情を感じさせる木の存在。お互いに信頼し、思いやっている関係すら想像できます。題名の「游」という字には、およぐ、うかぶ、あそぶ…などの意味があり、木と小鳥の優しい印象にしっくりときます。小川原脩の遺した草稿に「〈游〉について」というものがあります。それは、小川原の支援活動していた「作品を考える会」からの励まし、そして北海道開発功労賞受賞に対しての感謝がつづられていて、作品のことは触れずに記述は途中までとなっています。游は、感謝の思いを託していた作品なのかもしれません。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 副館長）

アリスイー風変わったキツツキの仲間

キクキクキク…。今の時期、少し開けた森や川沿いに響く、尻上がりに高くなる声。声の主はアリスイという鳥で、北海道では春から秋にかけて見られます（写真①）。

アリ吸いの名前のとおり、アリを主食とするキツツキの仲間ですが、他種に比べるとキツツキらしからぬ特徴をいくつか備えています。まず、木をつついて穴を掘ることができず、巣はほかのキツツキ類が作った巣穴や、樹洞を使って作ります。ほかにも、木の幹に対し垂直に止まる、キツツキらしい姿勢（写真②）をほとんどしません。また、アリを食べるために頻繁に舌を出すさまは、どこかヘビのようです。

実は「ジンクス」という言葉は、アリスイの属名「Jynx」に由来するとされています。日本では吉凶問わず使われる言葉ですが、ヨーロッパでは縁起の悪いことを指して使われます。アリスイのヘビに似た挙動が、不吉なイメージを連想させたのでしょう。

文：小田桐 亮（倶知安風土館 学芸員）



ふる探訪 さと

506回



①アリスイ



②典型的なキツツキ類の姿勢

展覧会のお知らせ

■第1展示室

小川原脩展「私の中の原風景」
会期：開催中～8月24日(日)

■第2展示室

小川原脩セレクション「Humans & Animals」
日時：開催中～7月6日(日)

■ロビーギャラリー

北口さつき 空風火水地 5 Elements 70%
会期：6月1日(日)～6月30日(月)

アート・イベントのお知らせ

■ミュージアム・コンサート

マリンバ・コンサート「5Elements Story II」
北口さつき作品から連想したプログラムです。
日時：6月21日(土) 14時～15時
会場：ロビー（無料・先着70席）※予約不要
出演：井原由加子さん（マリンバ奏者）

美術館・風土館 コラボイベントのお知らせ

■共同ワークショップ

「おさんぽビンゴ」
草花や生き物のイラストでビンゴカードを作り、庭を散策しながらビンゴを完成させます。

日時：6月14日(土) 10時～12時（雨天決行）
会場：倶知安風土館（無料）
講師：小田桐亮（学芸員）、金澤逸子（学芸スタッフ）
定員：15名※小学2年生以下は保護者同伴
申込：美術館に電話申込（☎21－4141）

■展示解説ツアー

美術館と風土館の両方の見どころを学芸員がご案内します。
日時：6月29日(日) 11時～12時
会場：小川原脩記念美術館・倶知安風土館（無料）
※美術館集合 ※予約不要
講師：学芸スタッフ 定員：15名程度

倶知安風土館のお知らせ

■倶知安風土館に年間パスポートが登場します！

7月2日(水)から年間パスポートの発行を開始します（有効期間は購入から一年間）。

区分	観覧料		
一般（高校生以下以外の方）	個人	団体（10名以上）	年間パスポート
	200円	100円	500円
高校生以下	無料		
小川原脩記念美術館を観覧した方			

ミュージアム 通信

小川原脩記念美術館 ☎21-4141
観覧料：一般 500円（400円）
高校生 300円（200円）
小中学生 100円（50円）
倶知安風土館 ☎22-6631
観覧料：一般 200円（100円）
高校生以下、美術館観覧者無料

開館時間は9時～17時
入館は16時30分まで
※（ ）内は10名以上の団体料金
6月の休館日 毎週火曜日

Humans & Animals

小川原脩記念美術館では、7月6日まで第2展示室において小川原脩セレクション「Humans & Animals」を開催しています。

小川原作品には動物が描かれたものが数多くありますが、私はその中でも白鳥が描かれた作品の一つ（「無題」1971年）に興味を持ちました。

白鳥がこちらに向かっててくてくと歩いて来ているさまを描いたような、とてもコミカルな印象を受け一目で好きになってしまいました。皆さんもぜひお越しいただき、お気に入りの作品を探してみてください。

また、美術館や風土館の周りには、たくさんの鳥たちが訪れます。風土館では町内に生息している鳥の展示もありますので、バードウォッチングがてらお立ち寄りください。

館長 高橋 淳之 たかはし あつし

新登場！